

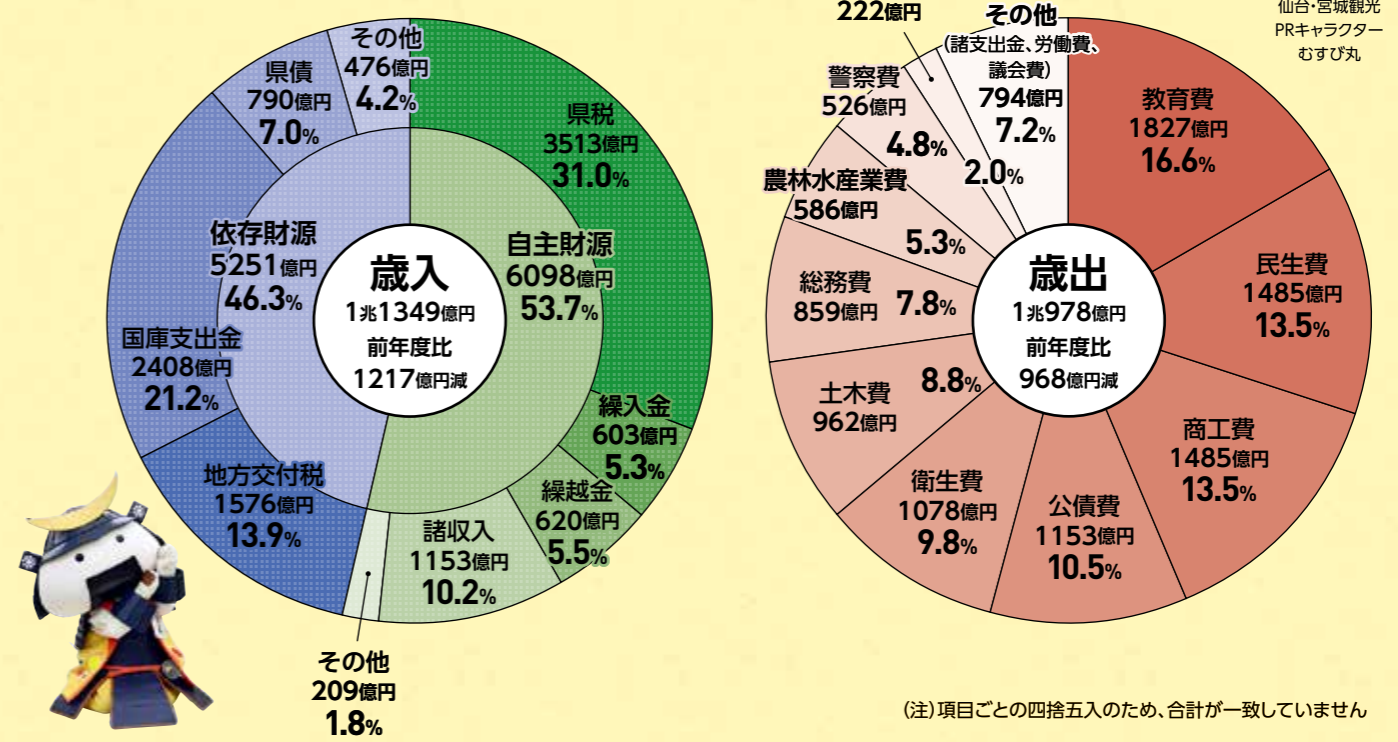


仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

令和4年度普通会計決算

県制150周年の節目を迎え、「新・宮城の将来ビジョン」のスタートから2年目となった令和4年度は、どの分野で重点的に事業が実施されたのか、県の財政状況はどうか。むすび丸と一緒に見ていきます。

令和4年度の決算額



(注) 項目ごとの四捨五入のため、合計が一致していません

令和4年度の主な取り組み

新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立

- ◆ 新型コロナウイルスワクチンの追加接種の実施に係る大規模接種会場の運営
- ◆ 新型コロナウイルス感染症患者専用の病棟を設定する医療機関等における病床の確保
- ◆ キャッシュレス決済の推進を通じた小売業やサービス業への支援 など

子ども・子育てを社会全体で支える環境整備

- ◆ 子ども・子育て支援や若者の職業生活における活躍の推進のための基金造成
- ◆ 不妊を心配する夫婦や子どもを望む夫婦の早期の不妊検査受診に向けた支援
- ◆ 私立学校に対する運営費や保護者の負担軽減を図る授業料軽減への助成 など

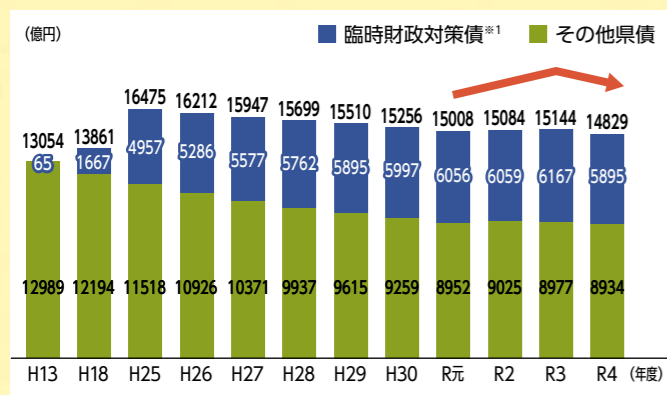
若者の県内定着

- ◆ 女性活躍に向けた若年女性層の就職・定着の推進
- ◆ 女性の新規就農者確保に向けた農業体験の実施、女性農業者の就労環境整備への支援 など

物価高騰対策

- ◆ 交通・貨物運送事業者への支援
- ◆ 低所得の子育て世帯に対する生活支援特別給付金等を支給
- ◆ 私立幼稚園などの光熱費等への支援 など

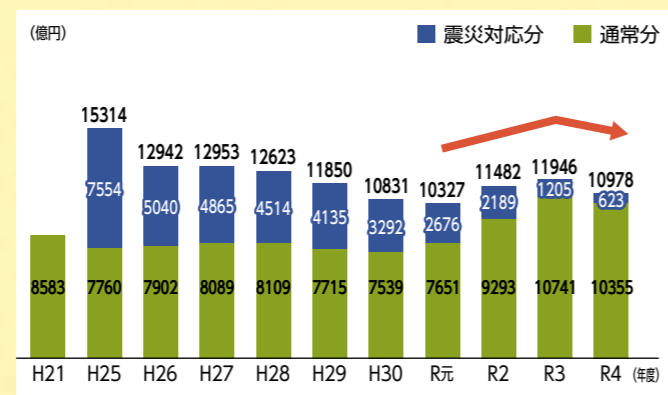
3年ぶり 借金減



臨時財政対策債*が減少したことや県債の発行を抑え気味にきたため、県の借金である県債残高の総額は、3年ぶりに減少しています。

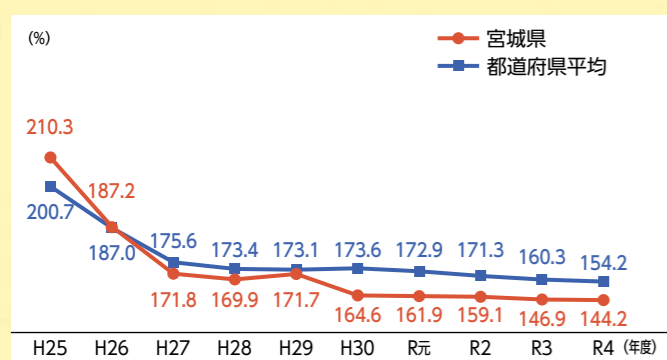
※1 国の財政事情により交付されなかった地方交付税の代わりに発行する県債。後年度に国が交付税を措置して返済する。

3年ぶり 歳出減



震災対応分は、ハード面の復旧・復興事業の進捗により減少し、通常分は新型コロナウイルス感染症対策費などが減少したため、全体として3年ぶりに減少しています。

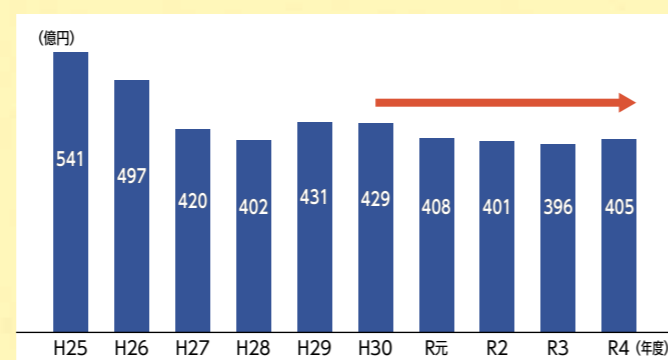
都道府県平均を下回る将来負担



将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す将来負担比率*2は144.2%で、8年連続で都道府県平均を下回っています。

※2 高いほど借金(県債)や将来支払いする可能性のある負担などの割合が大きい。財政状況悪化により財政の健全化が必要となる基準は400.0%

貯金は微増



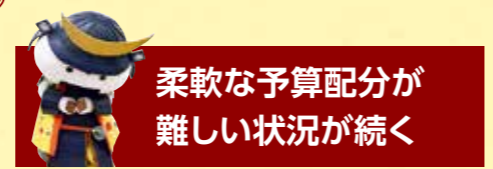
県の貯金に相当する財政調整関係基金の残高は、前年度と比べて9億円増加の405億円となり、5年ぶりに増加しています。

「宮城の将来像」の実現と持続可能な財政運営に向けて

東日本大震災からの復旧・復興に向けては、被災者の心のケアなど実情に応じたきめ細かな対策に継続的に取り組んでいく必要があります。

また、あらゆる分野でデジタル技術をフル活用する取り組みや次の世代を育成・応援する施策に加え、社会保障関係費や頻発化・激甚化する自然災害への対策などさらなる財政需要が見込まれるため、県財政を取り巻く環境は引き続き厳しいことが予想されます。

今後も、「みやぎ財政運営戦略(第3期)」に基づく対策を着実に実施し、「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる「宮城の将来像」の実現と持続可能な財政運営に向けて、全力で取り組んでいきます。



柔軟な予算配分が難しい状況が続く

県が自由に使えるお金のうち、人件費や借金返済に充てるお金(公債費)など、支出が避けられない経費が占める割合(経常収支比率)は、96.4%と依然として高くなっており、柔軟に予算を配分することが難しい状況が続いています。(令和4年度全国平均:92.6%)

問 財政課 ☎022(211)2312